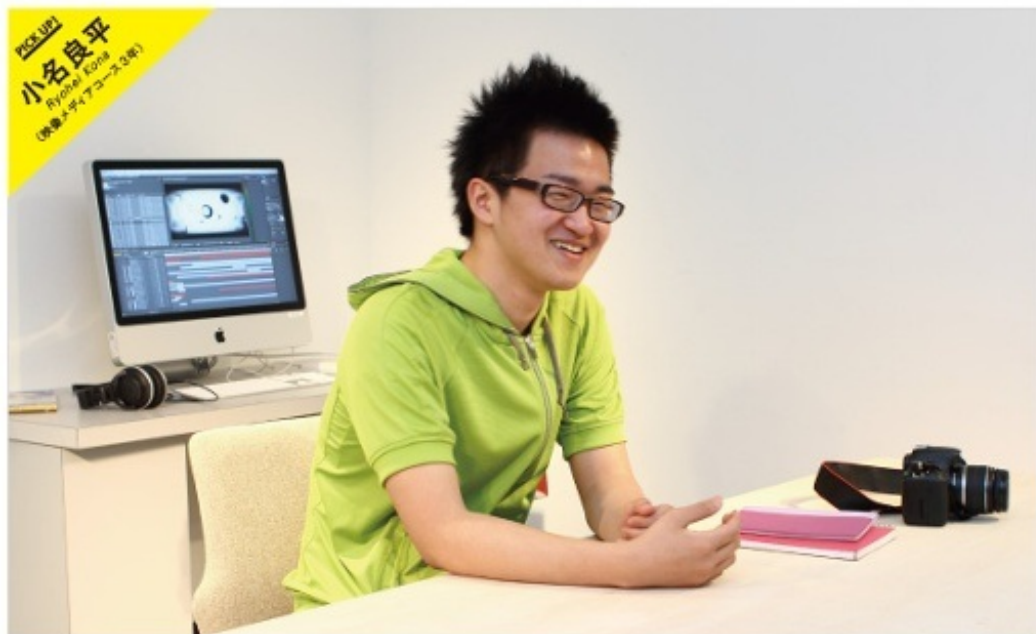


Students Production 1 Newsletter
S-PRO PRESS 1001 *Pre IssuePublished by
京都造形芸術大学 情報デザイン学科
スチューデント・プロダクション

S-PRO PRESS

00
Pre Issue

Now I take a free approach to my video work. 今は映像に対して自由な気持ちです。

シネマコンプレックスT・ジョイ京都×京都造形芸術大学 マナーCMプロジェクト2011
グランプリ受賞の小名良平さんに、今回の受賞や映像制作に対する姿勢について聞きました。

最初は女優さんと結婚したかったんで、女優さん
と関わる機会が多くなりそう、映画学科に行こう
と思ってたんです。高校の時もアルバイト先とか色
んなところで、女優さんと結婚したいんでって言っ
て。でもオープンキャンパスに行ったときに、「映像
メディアコースだと色んなものがつくれるよ」っ
て言われて、ちょうどショートフィルムにも少し興味
が湧いてきていた頃だったので、映像メディアコー
スに行くことにしました。結果的には自分にとって
これで良かったなと思っていますけど、女優さんと
知り合うとかそういう方向からはどんどん遠ざかっ
ているような気がします(笑)

映像をつくりたいってのはずっと好き
で、ニコニコ動画へのアップは高校2年の時に始め
ました。編集することも勿論ですけど、それだけじゃ
なくて、撮影するのもすごく好きだし、どんなもの
を撮ろうかと構想するのも好きだし、観るのも好き
だし、とにかく映像に関わることを全般がすごく好き
ですね。映像に関わることで自分の範囲が広がっ
ているような気がします。交友関係は勿論、以前
は殆ど興味なかった音楽にも、VJから始めて
DJを頼まれるようになってっていう経緯で、どん
どん興味をもっていきたくて。

T・ジョイ京都 マナーCMのグランプリに選ば
れたのはすごく嬉しかったです。今まであまり賞とは
縁がなかったので、他には山形のどこか地方の小
さいコンペで賞をもらったんですけど、それも応募
して随分経ってから「応募していただいてありが
とございました」っていう内容のお知らせが来た
だけだったので参加賞だと思っただけなんですけど、ネット
で調べてみたら「長い時間 部門賞」みたいな
賞を獲ってたっていうのがわかったという(笑)
とにかくそれくらい賞に縁がなかったんです。ま
ちょうど受賞のタイミングが、自分自身の気持ち
の変化があった時期と重なっていたのも良かった
です。以前は機材とか予算が揃ってないのと映像の
賞が保てないからって、アニメーションなんかの
ありものを使った作品が多かったんですけど、宇川先生
の「失敗はチャンスだ」とか「両足の着し悪しと
作品の魅力はリンクしない」という言葉に、そうか
なと思えるようになってきたので、自分では今まで
良くないと思ってたことも取り入れてみようとい
う気になってきたところでした。

映像を続けていくっていうことに関しても、入学
以来映像メディアコースだから映像関係の仕事に
就かないといけないという義務感みたいなものがあ

りてたんですけど、一方ではCDも売れないし、PVの仕事
もどんどん安くなっていて、映像作家の仕事は先細
りだーみたいな話を聞かされてくるのと、自分は映像
が好きで仕事も映像を選んだら趣味が仕事で、でも
仕事なら本意じゃないことも沢山あって、それな
ら映像に対する自分の正直な思いはどこにいくの
か、とかそんなんで悩んでいた時に、好きな映像
作家が映像をつくらせてくれるけれど実は本業はクリ
エーション業というのを知って、そういう道があるのか、
そういう生き方はかっこいいなあと思ったんです。
そこで映像に対する自分の姿勢がふっと楽になっ
て、自分は自由に映像に向かいたいっていう気持
ちになりました。

そんな時につくったのが T・ジョイ京都のマナー
CMで、本当に授業でこういうことに取り組みたく
かったと思いました。楽な気持ちでつくったのと、
高校のときに絵を描くのが好きだったけれど、大学
入学してからまったく描いてなかったのを、2年ぶり
に好きな絵を描いて、さっき話した自分としては
全体のクオリティっていうところでは自信のない
部分を出しているにも関わらずグランプリを賞え
たっていうのは、自分の中ですごく意味のあること
だと思っています。

T・ジョイ京都で上映決定!

2010年度後期に京都駅構内のシネマコンプレックス「T・ジョ
イ京都」との産学共同プロジェクトとして始まった「マナー
CM」プロジェクトでは、情報デザイン学科学生の制作した
映像のうち16本が採用されることになった。選出された作
品の内、グランプリ及び準グランプリ作品は4月30日(土)
より同シネコンにて全映画の本編開始前に上映される。他
の作品についても館内モニターはじめ、今後の映画ライン
ナップに合わせてスクリーン上映される予定。



グランプリ受賞の小名良平さんの作品

<受賞者>

- ▶グランプリ…小名良平 Ryosuke Kono
- ▶準グランプリ…長谷野裕 Tetsuya Tatsumi
- ▶入選 (50名順)
- 市川 敬 Toru Ichikawa
- 菊田 悠希 Shinya Inada
- 片倉 愛香 Aika Katohara
- 熊谷 知子 Tomoko Kumagai
- 坂井 直希 Aki Sakai
- ジダーノワ・アリーナ Aina Zhanova
- 谷まどか Madoka Tani
- 津野 紗帆 Saori Tsuno
- 中田 圭介 Keisuke Nakata
- 坂東 知美 Tomomi Bando
- 山口 悠美 Emi Yamauchi
- 福崎 麻衣 Rie Fukushima
- 宮藤 達也 Tatsuya Miyakoshi
- 森重 麗花 Rika Morishige

計16名

結構せっかちで、思いついたらすぐにやらないと
気が済まない性格なんですけど、個性だし、いろ
んなことに興味があって、いつときはこれだー!
と思って滅茶滅茶一生懸命やるんですけど、ある
程度のところまでいってもういいかなーと思って自分
の中のモチベーションが下がってしまうこともよくあ
ります。本当はそれじゃ駄目で、じっくり作り上げ
ていかないといけないのかなとも思うんですけど、
今はあまりまとめていこうという気持ちにならない
です。それよりも写真もどんどん撮って投稿したい
し、映像の加工や編集をコンピュータだけで完結さ
せるのではなくて、例えば少し以前に何かのPVで
撮ったんですが、画面の中で映像がプロジェクショ
ンされていて、そこに実際の人影を投影させるとリア
リティな合成というか、そういうアナログ段階での
加工の可能性について取り組んでみたいんです。デジ
タル加工では出せない味がそこに見いだせるんじや
ないかと思って。やってみたくった 3DCG にも取
り組んだりとか、まだ色々試してみたいことがある
ので、今は新しい可能性を試していくことで幅を広
げていきたいです。

小名良平さんの動画サイトURL

- ・ <http://vimeo.com/21957952>
- ・ <http://www.nicovideo.jp/mylist/9892304>

“Jo-de Positive 2011” is our theme for this year!

「情Dポジティブ2011!!!」

4月4日(月)に行われた学科運営会議にお
いて、棟本学学科長のかけ声のもと、今
年度の情報デザイン学科のテーマを「情Dポ
ジティブ2011!!!」とすることが決まった。東日
本大震災の影響で、全国的に自粛ムードと閉
塞感が漂う中、小さな声であったとしても情

報デザイン学科から前向きな気持ちを打ち出
し、周囲を明るくするようなムードメーカーと
しての旗幟を上げたいという思いが、こうした
テーマを掲げるきっかけとなった。

具体的な活動内容については現在検討中。
詳細が決まり次第、随時学科掲示板や学科
運営ウェブサイト「jo-d.jp」などで発表するこ
とになる。

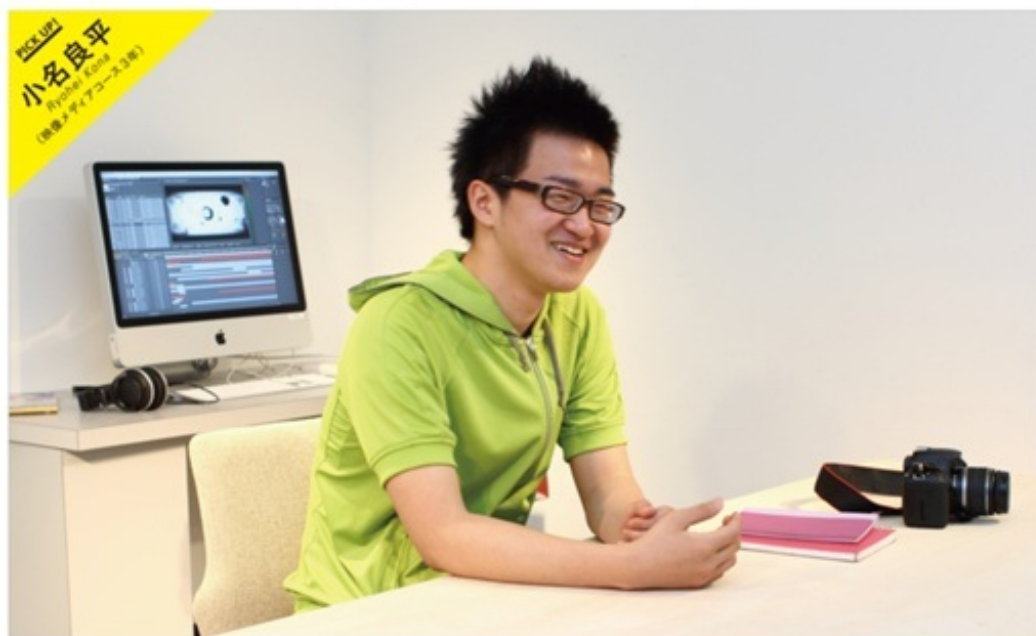


テーマを決定する運営会議メンバー

PORTFOLIO
4.27(土) → 6.3(土) 展
水・木・金曜日のお昼休みにOPEN
【京都造形芸術大学 実習室1F CREATOR'S MARKET VÖTEN VÖTEN】
絶賛開催中
4/29(FRI)のオープンキャンパスでは10時～16時で観覧

Students Production | Newsletter
S-PRO PRESS [00] *Pre IssuePublished by
京都造形芸術大学 情報デザイン学科
スチューデント・プロダクション

S-PRO PRESS

00
Pre Issue

バックアップ
小名良平
Ryosuke Kono
(映像メディアコース2年3組)

Now I take a free approach to my video work. 今は映像に対して自由な気持ちでいます。

シネマコンプレックスT・ジョイ京都×京都造形芸術大学 マナーCMプロジェクト2011
グランプリ受賞の小名良平さんに、今回の受賞や映像制作に対する姿勢について聞きました。

最初は女優さんと結婚したかったんで、女優さん
と関わる機会が多くなりそう、映画学科に行こう
と思ってたんです。高校の時もアルバイト先とか色
んなところで、女優さんと結婚したいんですけど言っ
て、でもオープンキャンパスに行ったときに、「映
像メディアコースだと色んなものがつくれるよ」っ
て言われて、ちょうどショートフィルムにも少し興
味が湧いてきた頃だったので、映像メディアコース
に行くことにしました。結果的には自分にとって
これで良かったと思っていますけど、女優さんと
知り合うとかそういう方向からはどんどん遠ざかっ
ているような気がします(笑)

映像をつくりたいって思ってたんですけど、好き
で、ニコニコ動画へのアップは高校2年の時に始め
ました。編集することも勿論ですけど、それだけじゃ
なくて、撮影するのもすごく好きだし、どんなもの
を撮ろうかと構想するのも好きだし、観るのも好き
だし、とにかく映像に関わることに全般的に好き
ですね。映像に関わることで自分の範囲が広がっ
ているような気がします。交友関係は勿論、以前
は殆ど興味がなかった音楽にも、VJから始めて
DJを頼まれるようになってという経緯で、どん
どん興味をもっていったらして、

T・ジョイ京都 マナーCMのグランプリに選ば
れたのはすごく嬉しかったです。今まであまり賞とは
縁がなかったので、他には山形のどこか地方の小
さいコンペで賞をもらったんですけど、それも応募
して随分経ってから「応募していただいてありが
とございました」っていう内容のお知らせが来た
だけだったので参加賞だと思ったんですけど、ネット
で調べてみたら「長い時間 部門賞」みたいな
賞を獲ってたっていうのがわかったっていう(笑)
とにかくそれくらい賞に縁があったんですけど、
ちょうど受賞のタイミングが、自分自身の気持ち
の変化があった時期と重なっていたのも良かった
です。以前は機材とか予算が揃ってないって映像の
賞が保てないからって、アニメーションなんかの
ものを使った作品が多かったんですけど、宇川先生
の「失敗はチャンスだ」とか「画質の善し悪しと
作品の魅力はリンクしない」という言葉に、そうか
なと思えるようになってきたので、自分では今まで
良くないと思っていたことも取り入れてみようとい
う気になってきたところでした。

映像を続けていくっていうことに関しても、入学
以来映像メディアコースだから映像関係の仕事に
就かないといけないという義務感みたいなものがあ

たんですけど、一方でCDも売れないし、PVの仕事
もどんどん安くなっていて、映像作家の仕事は先細
りだーみたいな話も聞かされてくるので、自分は映像
が好きで仕事も映像を選んだら趣味が仕事で、でも
も仕事なら本意じゃないことも沢山あって、それな
ら映像に対する自分の正直な思いはどこにいくの
か、とかそんなんで悩んでいた時に、好きな映像
作家が映像をつくっているけれど実は本業はクリ
エーション業というのを知って、そういう道があるの
か、そういう生き方はかっこいいなあと思ったんです。
そこで映像に対する自分の姿勢があつと案になっ
て、自分は自由に映像に向かっていけるという気持
ちになりました。

そんな時につくったのがT・ジョイ京都のマナー
CMで、本当に授業でこういうことに取り組み
て良かったと思いました。楽な気持ちでつくったのと、
高校のときに絵を描くのが好きだったけれど、大学
入学してからまったく描いてなかったのを、2年ぶり
に好きな猫の絵を描いて、さっき話した自分として
は全体のクオリティっていうところでは自信のない
部分を出しているにも関わらずグランプリを買
ったっていうのは、自分の中ですごく意味のあるこ
ただと思っています。

T・ジョイ京都で上映決定!

2010年度後期に京都駅西のシネマコンプレックス「T・ジョ
イ京都」との産学共同プロジェクトとして始まった「マナー
CM」プロジェクトでは、情報デザイン学科学生が制作した
映像のうち16本が採用されることとなった。選出された作
品の内、グランプリ及び準グランプリ作品は4月30日(土)
より同シネコンにて全映画の本編開始前に上映される。他
の作品についても館内モニターはじめ、今後の映画ライン
ナップに合わせてスクリーン上映される予定。



グランプリ受賞の小名良平さんの作品

<受賞者>

- ▶グランプリ—小名良平 Ryosuke Kono
- ▶準グランプリ—豊谷哲也 Tetsuya Tatamitani
- ▶入選 (50名順)

市川 徹 Toru Ichikawa
稲田慎也 Shinya Inada
片倉愛香 Aika Katayama
熊谷知子 Tomoko Kumagai
坂井善季 Aki Sakai
ジダーノフ・アリーナ Alina Zhdanova
谷まどか Madoka Tani
津野紗織 Saori Tsuno
中田圭介 Keisuke Nakata
坂東加美 Tomomi Bando
日田恵美 Emi Hida
福岡梨衣 Rie Fukuoka
宮園達也 Tatsuya Miyakoshi
森重風花 Fuka Morishige

計16名

結構せっかちで、思いついたらすぐにやらないと
気が済まない性格なんですけど、飽き性だし、いろ
んなことに興味があって、いっときはこれだー!
と思って滅茶滅茶一生懸命やるんですけど、ある
程度のところまでいってもういいかな〜と思って自分
の中のモチベーションが下がってしまうこともよくあ
ります。本日はそれじゃ駄目で、じっくり作り上げ
ていかないといけないのかなとも思うんですけど、
今はあまりまとめていこうという気持ちにならない
です。それよりも実写もどんどん撮って挑戦したい
し、映像の加工や編集をコンピュータだけで完結
させるのではなくて、例えば少し以前に何かのPVで
観たんですけど、画面の中で映像がプロジェクト
されていて、そこに実際の人影を投影させたリアル
タイムな合成というか、そういうアナログ段階での
加工の可能性について取り組んでみたいんです。デジ
タル加工では出せない味がそこに見いだせるんじや
ないかと思って、やってみてみた3DCGにも取
り組んだりとか、まだ色々試してみたいことがある
ので、今は新しい可能性を試していくことで幅を広
げていきたいです。

小名良平さんの動画サイトURL

- ・ <http://vimeo.com/21957952>
- ・ <http://www.nicovideo.jp/mylist/9892304>

“Jo-de Positive 2011” is our theme for this year!

「情Dポジティブ2011!!!」

4月4日(月)に行われた学科運営会議にお
いて、坂本学長からのかけ声のもと、今年
度の情報デザイン学科のテーマを「情Dポ
ジティブ2011!!!」とすることが決まった。東日
本大震災の影響で、全国的に自由なモードと閉
塞感が漂う中、小さな声であったとしても情

報デザイン学科から前向きな気持ちを打ち出
し、周囲を明るくするようなムードメーカーと
しての旗幟を上げたいという思いが、こうした
テーマを設けるきっかけとなった。

具体的な活動内容については現在検討中。
詳細が決まり次第、随時学科掲示板や学科
運営ウェブサイト「jo-d.jp」などで発表するこ
とになる。



テーマを決定する運営会議メンバー

PORTFOLIO
4.27(木) → 6.3(日) 展
水・木・金曜日のお昼休みにOPEN
【京都造形芸術大学 東大1F CREATOR'S MARKET VÖTEN VÖTEN】

絶賛開催中

4/29(FRI)のオープンキャンパスでは10時—16時で開催

In my pictures, various motifs are brought together.

絵の中で、いろんなものがひとつになる。



授業レポートがきっかけで、通販大手『フェリシモ』のカatalogにイラスト6ページ掲載という大活躍や、現在大阪・茶屋町で展開中の『ヌーの大移動』プロジェクトに参加するなど、学外でも積極的に活躍中の山本郁さん。一見「可愛いもの好き」に見える彼女だが、意外にも好きなイラストレーションは60年代のサイケデリックカルチャーにあるという。



小さい頃から絵を描いたり、ちよこちよこ何かつくったりするのが好きだったんですけど、芸大に行くとは全然考えていませんでした。それが高校2年の美術の授業で自由制作をするという課題が与えられて、急に「これしかない! この道に進もう!」と何故かものすごく強く思い込んだんです。両親は絵を描くのは好きな子だということは知っていましたが、まさかその道に進もうと言いつつは思っていなかったもので、驚いてはいましたけど、母がピアノ教室を開いたりしていたこともあって、そういうことに理解があったのか、特に反対はされませんでした。ただ、父には「行くからには何か残せよ」と言われました。

大学を決めるのは色々検討してはいたのですが、もう最初から最後まで京造一本で受けて、何回か落ちたとしても最後の入試までここで受けようって決めました。でもそれもきっかけは、高校の友人で京造の舞台芸術を考えていた子に、こ

んなところから紹介されてオープンキャンパスに行ったんです。そこでもらった『情D Book』の村林山貴さん(2005年度生)の絵を見た時に、「うわあ、すごい! もうこの大学に行くしかない!」って。うん、村林さんのあの絵は本当に印象的で、もうここしかないって思いましたね。

絵については曲線を描くのが好きで、1年生の時は模写みたいなものばかり描いていましたね。デッサンも好きなんですけど、曲線で描き込んでいくのは、本当にすごく好きです。どんどん描き込んで出来上がった絵を後で見ると、何でこんなのが描けたのかよくわからない、って自分でも思っちゃいます。もう1回描けて言われたら絶対描けない(笑)でも絵を描こうと思ったときはばあつと何を描くかが浮かんで、どんどん描きます。細かく曲線を描いていくことで、こう、一部分だけ見ても、全体から見てもいいような……。現在授業を受けている佐藤光(あたる)先生もおっしゃっていましたが、全体から見ると絵の一部分なんだけど、どこから見てもいいものの中にいっているようなのがいいです。境目っていうのが自分の中で重要かも知れないです。その境目の微妙な部分を見たいとか、知りたいたか、そういう気持ちで絵を描いているのかも知れない。

リアルな人物の絵と曲線の組み合わせを描いていた。1年生の時に先生に「こんなにリアルに描くん



カラフルな色彩と細かな模様がらりばりめられた山本さんのイラストレーション原画。

なら、わざわざ描かなくても写真でええんちゃうの?」って言われたんですけど、それは違うんですよ。リアルに描くことで、絵と曲線の間が全然違うものなのと親和性が出るというか、一緒のもの、同じ世界のものなんだっていう感じがするんですよ。別々なものが混じり合う感じっていうのが面白くて、すごく興味があります。見た瞬間は別のもんなんだけど、世界は一緒なんだって思えたりとか。普段からリアルな現実の世界と、空想の世界もどっちが本当のことなのかとか、どっちも本当のことなんじゃないか、とか思う事があって、そういうのを一つにしたいって絵にするっていうのはあると思います。

(60年代に世界的な成功を収めたバンドの) クリーム のジャケットワークをやっているマーティン・シャープの絵が一番好きですね。ああいう感じは、最初はもどきの音楽のPVで、普通の映像にアニメーションが侵蝕していくようなのを見た時に「お! これすごい! これいい!」って思ったのがきっかけで、追っていったらそういうのをつくった人は、昔の人に影響を受けているっていうのがわかって、元になったマーティン・シャープとかはもうすぐで、「やばい!」と思ってしまいました。その時代のイラストレーター連の作品には、何か神聖なものがあるように感じます。こういうのを知ってしまうと、もう後戻りできないなあって思います。クリームのレコードジャケットで、モノクロがあるんですけど、それがもう曲線の感じとか絶妙でいいんですよ。本当に良くて、大好きです。

そんな感じだったので、フェリシモのイラストレーションの話が来たときはすごくびっくりしました。全然自分の絵なんて可愛いと思ってないしどうして? と思って。でもせっかくなのでお話だったので、これも挑戦と思って取り組んだら、うっかり可愛い感じじゃないタッチを描いてしまって、「もう少し柔らかい感じをお願いします」と言われて、細か直したり。1週間で6枚、しかもいろいろ制限もありつつ描く材料も揃っていないような状態で、短期間で大変だったのによくやれたなと思いますけど、良い経験になりました。



同級生の山田千尋さん(イラストレーションコース)と共同制作した。大阪・茶屋町「ヌーの大移動」プロジェクトでのイベント作品。

今年は自分の絵をアニメーションで動かすことも取り組んでみたいし、大学に入る前は本当にイラストレーションのことも何も知らなくて、今もまだまだ周りにくらべて全然知らないと思うので、もっと勉強しなくちゃって思っています。

情D BOOK 2012 完成!!

情報デザイン学科サイドブック「情D Book 2012」が完成した。今年はコミュニケーションデザインコース2年生を中心に、8名の学生が12月から着手し、春休みまで制作にあたった。学生の日々のスケジュール公開のページをはじめ、従来よりも多くの学生の声を集めるように工夫したという中には、自信もすなり。

「冊子が完成するまでに、学科の先生やスタッフ、取材に応じてくれた学生などを始めとして、本当に多くの方が関わっているプロジェクトだったので、そういうもののプロセスに関わることが出来て良かった。」「途中作業の大きさにアテンションが下がりがそうになったけど、皆でアテンションをかけて気分をあげて乗り切ったり、普段授業ではないお話しやストリートな意見の主張や交換などあって本気で向き合えた」など、皆それぞれに何かを個人だっけりだった。

完成した冊子は4月29日のオープンキャンパスを皮切りに、学内外で広く配布される。

<情D BOOK 2012 制作生メンバー> 50名

荒家新 Yuki Arake 寺澤志奈 Shina Terazawa
出井祐美 Yumi Idei 野村幸絵 Sachie Nomura
木下敦乃 Fushino Kinoshita 阪上太一 Taichi Hishie
鈴木智梨 Chihiro Suzuki 吉川香織 Kaori Furukawa

制作過程を振り返るメンバーたち



情報デザイン学科 Presents 新歓上映会 2011

毎年この時期恒例の情報デザイン学科主催「新歓上映会」が、今年も4月15日および22日の2日間に渡って開催された。初日は世界のショートフィルムの中から、一切台詞を排し、音楽との組合せを重視したよりすぐりの日本、2日目は情報デザイン学科在学生および卒業生の作品を、こちらも11本上映した。参加者は新入生を中心として上回生の姿も見られ、「これらの制作に対して意欲をかきたられた」「短編とは思えない深い世界観を感じた」など、好評を得た。

ショートフィルムの上映機会は非常に限られているため、学科では今後こうした取り組みを続けて、1人でも多くの学生に観て刺激を受けて欲しいと考えている。



S-PRO TIMES について

「S-PRO TIMES」とは、情報デザイン学科の「今」と「未来」を伝えるために創刊した広報誌です。情報デザイン学科の在学生や卒業生の活躍を、その時々学科のニュースを交えて紹介していきます。(S-PRO TIMESはStudent Productionの略です)

スチューデント・プロダクション広報誌
S-PRO TIMES [00] 創刊準備号

2011年4月29日発行
編集・発行/京都造形芸術大学 情報デザイン学科
スチューデント・プロダクション
606-8271 京都市左京区北白河川原山2-116
京都造形芸術大学 情報デザイン研究室
TEL/075-791-9280 FAX/075-791-9434
学科運営WEB http://www.jo-d.jp/

©京都造形芸術大学 情報デザイン学科 2011



Watch a great gnu migration in Umeda!

梅田にヌーの大移動出現?

大阪梅田の若者の街といわれる茶屋町に、ペイントを施したカラフルなヌーのオブジェ 23体がお目見えしている。これは4月29日(日)茶屋町にオープンするファッションを中心とした複合ビル「NU+」のお披露目キャンペーンのためのもの。広告代理店「電通」の依頼により、イラストレーションコースを中心とした学生が、春休み中に制作した。「NU+」の各ショップの雰囲気に合わせてペイントされたヌー達は、それぞれカラフルで全く雰囲気の違う力作揃いで、電通はじめ関係者多くに非常に高い評価と驚きを与えた。オブジェはGW期間中屋外展示され、通行者の目を楽しませる予定。

